



# 野洲慈恵会通信

第48号

ぎおうの里・悠紀の里・悠紀の里びわ・あやめの里・デイセンターさくら・きたの保育園



発行：社会福祉法人野洲慈恵会

TEL：077-586-5444（代表）

住所：〒520-2351 滋賀県野洲市富波甲1340番地1

FAX：077-586-5159

ホームページアドレス <http://yasujikeikai.jp/>

## 令和8年新年のご挨拶

社会福祉法人野洲慈恵会

理事長 奥村義一



謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は当法人の事業運営に際し、格別のご理解とご支援を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

本年の干支は「午」であり、勢いと活力に満ち、活動的な一年になるといわれております。当法人におきましても、この気運に乘じ、積極的に事業へ取り組み所存でございます。

さて、少子高齢化の進展に伴い労働人口の減少は避けられません。その一方で介護業界における需要はますます高まり、慢性的な人材不足が最大の課題となっております。こうした状況を踏まえ、当法人では職員の安定的な定着を目指し、以下の取り組みを重点的に推進しております。

1. 明るく風通しの良い職場環境の整備
2. 挨拶の励行を通じた円滑なコミュニケーションと気配りの徹底
3. 一人こそ法人の財産ですので人材教育の充実とワークライフバランスの推進

おかげさまで毎年の「創立記念日」には、30年勤続をはじめ、20数名の職員が永年勤続表彰を受けております。これもひとえに、利用者様、ご家族様、行政ならびに地域の皆様温かいご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。事業の安定は、地域の皆様からの信頼と安心の上に成り立つものでございます。今後も自治会サロン、出前講座、初めての介護・保育講座など、地域活動を行う・地域の皆様とご相談のうえ積極的に展開してまいります。法人を取り巻く環境は年々厳しさを増しておりますが、事業の安定に向けて一層の努力を重ねてまいります。本年も変わらぬご支援とご厚情を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## ぎおうの里 感染症から 普通の生活とは何かを考える

特別養護老人ホームぎおうの里 事務職員

松本清一

令和時代は新型コロナウイルスで始まったともいえる時代となりました。令和元年末に報告されてから世界的に未曾有の危機に見舞われ、パンデミックという言葉が現実に使われるのを初めて目の当たりにしました。当時、ぎおうの里においてもご利用者や職員も新型コロナウイルスに感染してしまいましたし、見えない「モノ」に対する恐怖は相当なものでした。体力の減退した高齢者であるご利用者に感染を広げ

がら、新型コロナウイルスに感染されたご利用者の咳の飛沫を浴びた後のマスクやガウンを取り換えながら笑っているのが今でも目に焼き付いています。現在その時ほどではありませんが、感染症はまだまだ猛威を振るっています。我々もその時のノウハウを活かしながら、ご利用者の日常生活を取り戻すべく、今年度本格的にボランティアの方々の受け入れを再開しました。以前から「ボランティアの受け入れを再開されたらご連絡ください」とお声をかけて下さるグループなどもあり、ご利用者のことを考えて下さっているのは、家族や我々だけでは無いのだと胸に熱いものが込み上げてきました。

ではならない一心で、アルコール消毒、マスク、ガウン、グローブ、フェイスシールドを付け、新型コロナウイルスに感染されたご利用者をケアし、夏にはその装備のせいで大量に汗をかきながらお風呂の介助をしている介護職員には本当に頭の下がる思いでした。それでもあちらこちらから熱発者が発生し、濃厚接触者の特定、保健所への報告、家族への説明、施設内のゾーニング、勤務の再調整等をして

なんとかケアを継続しておりました。職員も疲弊してくる中、ある職員が「疲れは抜けないですけどね、誰かがみないと・・・やれるだけやります！」と言いな



あやめの里

# 食欲の秋にみんなでバイキング

特別養護老人ホームあやめの里 介護職員

黒川 恵里香

秋と言えば食欲の秋。施設のみなさんに好きな物を好きなだけ食べていただけるようにバイキングを実施しました。まず各部署からバイキング実行委員を選出し、どのようなバイキングにすればご利用者の皆さんに喜んでいただけるかと会議を重ねました。会場のレイアウトや提供する料理、当日の流れ等を確認し、万全の準備をして当日を迎えました。

当日はたくさんのご利用者と職員が参加し、すごく賑わいました。料理の種類も多く、どれを食べようか迷うくらい皆さん大興奮。「おいしいわ、こんなご馳走を食べられて嬉しいわ。」とたくさんのご利用者の方からの声が聞くことができ、食べることの楽しさを味わっていただけたと思います。また一緒に参加されたショートステイのご利用者の方と知り合い同士の方も多く、直接会っての久しぶりの会話も楽しそうでした。ご利用者も職員もみんなが楽しみ、充実した一日となりました。



悠紀の里

# 100歳のお祝いと夏のレクリエーション

特別養護老人ホーム悠紀の里 介護職員

藤野 愛

厳しい寒さを迎える季節となりました。悠紀の里びわユニットでは、昨年100歳とられる方がおられ、縁起の良い年となりました。お祝いの主役となるご本人は、表彰状を手渡されてきよとんとしておられました。周囲の方々から「おめでとう！」「ようがんばったなあ」「まだまだ頑張りやう」など、たくさんのお祝いの言葉を贈られ、心温まる素敵な時間となりました。

また、昨年は四季折々の行事やレクリエーションにも力を入れて取り組みました。夏に実施した「アイスクリーム屋さん」の催しでは、アイ

スクリームを入れる透明のカップに、各々好きなシールを貼ってご自分オリジナルの器を作っていたきました。「これ見て、可愛くできたり、数種類のアイスクリームやフルーツソースを選んで職員とデコレーションしていきました。「楽しいわ」と喜びの声や笑い声が聞こえ、楽しそうな皆さんの様子に職員も嬉しくなりました。

今年もまた皆さんと一緒に楽しい時間をたくさん過ごしていきたいと思えます。



# 「利用者の「やりたい」ができるデイサービスへ

デイセンターさくら 介護職員

青木 奈保子

朝晩は冷え込みますが、日中はやわらかな陽ざしを感じる11月初旬。この日も気持ちの良い小春日和でした。ふと、ご利用者より「今日は暖かいし散歩に行きたいな」とのご希望があり、外出することになりました。施設から希望が丘の前の道を通って図書館へ。この道は秋になると赤や黄色に彩られ、普段この道を通らない方も「綺麗やなあ！」と大喜びでした。図書館では本を読んだり、書写の作品を見たりと皆様思い思いに過ごされました。その後は中庭に出て、どんぐりを拾ったり、花や木々を見ながらゆっくり散歩をしたり、ベンチに座ってお話しをした

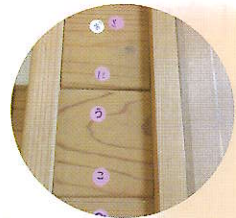


りとゆったりと時が流れていました。「ああこの場所いいなあ」「気持ちぐええわ」と自然とやわらかな表情になられます。普段は職員が1ヶ月のレクリエーションの予定を予め決めるのですが、ご利用者発信でその日の予定を決めるのも大切だと感じました。職員側が提供するだけでなく、ご利用者がやりたいことを遠慮することなく提案できる雰囲気を作り、皆さんが楽しく過ごせるデイサービスを一緒につくっていききたいです。

# 『壁のシールは...』

きたの保育園 保育士

小浦 由佳



毎月行っている身体測定をした日。子ども達が部屋の壁際に並んで遊んでいたのを見て、壁際に見ると、壁を身長計に見立て、年長さんが細長いブロックを頭に当てて、「〇〇ちゃんはこの！」と言いつつ、みなさんの身長を測っていました。その様子を見てみるとふいに、はしらの傷は、おととしの「の」の童謡（背くらべ）が頭に流れてきました。



壁に傷はつけられないけれど、せっかくなら目印になるものを付けてあげたいなあと思い、丸いシールを渡しました。そのシールに子ども達の名前の頭文字を書いて次々と測っては貼っていました。測り終えた後は「△△ちゃんはこのなに大きいんや!」「僕の方が〇〇ちゃんより大きい!」と数字では知りえない自分達の目でわかる友達との「背くらべ」に盛り上がる子ども達でした。日々の生活体験を自分たちなりに再現し、楽しむ姿がなんとも面白い風景でした。次の身体測定の後には、またシールが増えていくのが楽しみです。



## 法人創立35周年と永年勤続表彰



当法人は、令和7年11月29日で創立35周年を迎えました。これも偏に地域の皆様のご支援、ご協力のたまものと心より感謝申し上げます。

この日は同時に職員の永年勤続表彰式も開催しています。今年は30年勤続の方も含め、合計23名の職員が受賞し記念品が贈呈されました。

授賞式の後には、参加者と施設長や園長がテーブルを囲み、おいしいデザートを食べながら思い出を語り合いました。

今後とも地域の皆様に愛される施設づくりを目指し、職員一丸となり、より一層社会福祉に貢献して参ります。



## 令和7年度法人同和問題研修会を実施しました。

～「さかな屋さんと自尊感情」から学ぶ人権の視点～ 法人事務局長 倉岡英基



令和7年12月9日・16日の両日、「コミュニティセンターなかさと」にて法人同和問題研修会を実施しました。講師には野洲市社会福祉協議会会長の西村健氏をお迎えして、職員140名以上が参加しました。

本研修は毎年継続して実施しているもので、法人全体で人権意識を深め、現場に活かす大切な機会となっています。西村氏は「さかな屋さんと自尊感情～人権は一人ひとりの生き方から～」をテーマに、教育現場での経験やご自身の生い立ちを交えながら、人権の本質を語られました。「人は信じてつながれる」「人権の歴史は人間が権利を獲得してきた歴史である」という言葉に、参加者は深くうなずきながら耳を傾けていました。

今回の研修は、知識の蓄積にとどまらず、日常に潜む「無意識の偏見」に気づく機会となりました。自尊感情を高く持つことでご利用者や子どもたちの“その人らしさ”を尊重する姿勢を育むことにつながり、認知症のある方へのやさしい声かけや、子どもの人権意識の育みへと結びついています。「人は信じてつながれる」。西村氏の言葉は、地域福祉に携わる私たちにとって、差別や偏見をなくし、誰もが“その人らしく”暮らせる社会を築くための大きな指針です。毎年の研修を通じて、この学びを積み重ね、前向きな姿勢で実践を続けていきます。



## 職員を募集しています

野洲慈恵会では、一緒に働いてくださる介護職員を募集しています。

無資格・未経験の方でも安心して仕事ができるよう、職員が直接指導し習得段階に応じて仕事をしていただいています。

お知り合いの方で求職中の方がおられましたら、お声かけいただけると幸いです。

### 連絡先

野洲慈恵会本部  
(ぎおうの里内)

☎077-586-5444

採用担当まで